



令和4・5年度 幼児教育研究



八尾市立安中ひかりこども園

令和5年3月



研究テーマ

『かけがえのない一人ひとりを大切に』
～あったかさを心つながるひかりっこ～

八尾市立安中ひかりこども園

所在地：八尾市安中町8-6-23

電話：072-991-7249

園長：岡内 郷子

◆クラス編成◆

〈乳児クラス〉

0歳児	1歳児		2歳児		合計
ひよこ組	うさぎ組	りす組	きりん組	ぞう組	63名
9名	12名	12名	15名	15名	

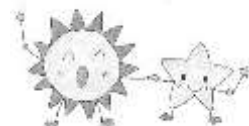
〈幼児クラス〉

3歳児			4歳児		5歳児		合計
もも組	りんご組	ぶどう組	ばら組	こすもす組	にじ組	ほし組	170名
18名	17名	17名	29名	29名	30名	30名	

合計：233名

◆園目標

- ⑤さしくかかわり、生命を大切にする子ども 《大切にする力》
- ⑥くすく育ち、元気に生活する子ども 《元気に生活する力》
- ⑦かよく遊び、心がつながる子ども 《つながる力》
- ⑧んじて考えて、夢中になって遊ぶ子ども 《考えてチャレンジする力》



きらちゃん りんちゃん

1. 園の概要

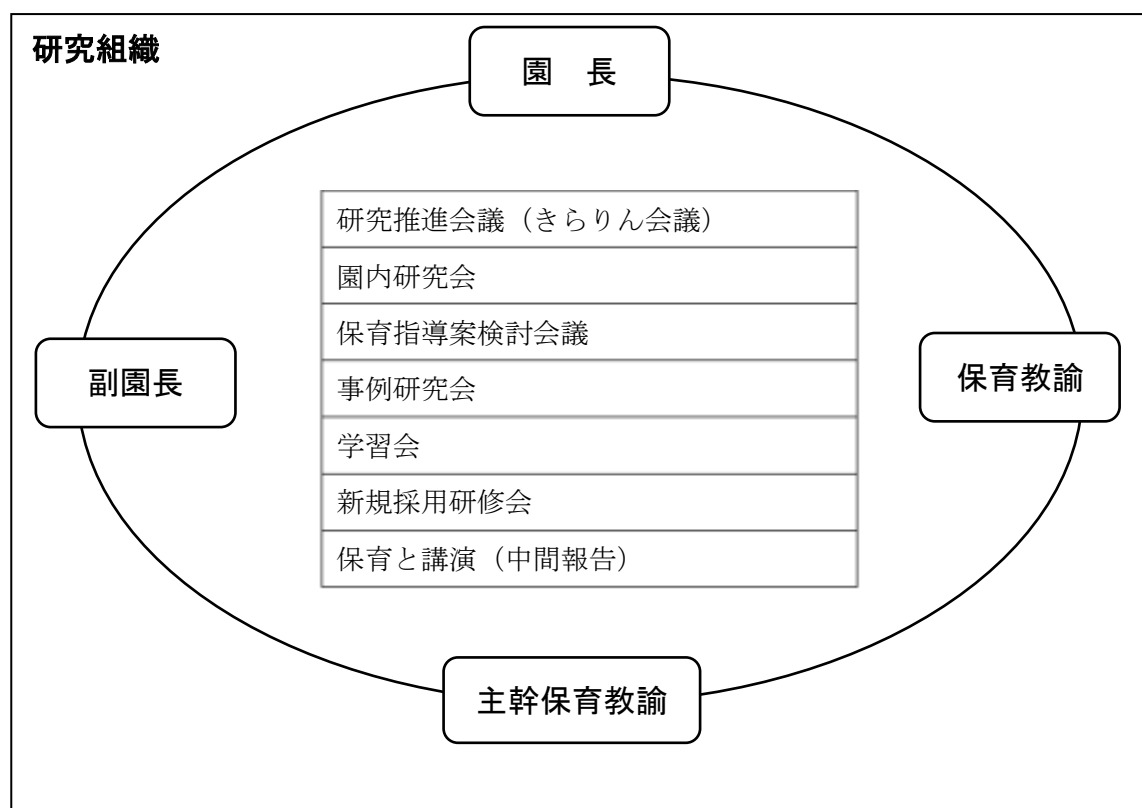
本園は八尾市の公立こども園として『子どもの健やかな成長と発達の連続性を保障し、生きる力の基礎を培う』『子どもが保護者や地域に見守られ、かかわりをもちながらともに育つ力を育む』ことを基本理念とし、平成31年4月に開園しました。園舎のコンセプトは“光”。その名の通り、自然の光を感じられる施設となっています。

本園には現在233名の子どもたちとおおよそ60名の職員が在籍しています。外国にルーツをもつ子どももおり、多文化共生が身近に感じられる環境でもあります。

園の特色として、地域の方々との交流を目的としてつくられた農園があります。主に3・4・5歳児が農園活動を行う際には、地域の方の協力があったり、子どもたちの様子を見に来てくださったりする交流にもつながっています。

また、小・中学校や私立のこども園との交流も大切にし、地域施設との連携・協力を図りながら「地域に根ざしたこども園」をめざしています。

◆研究組織図



2. 園の実態及び研究テーマの考え方

◆園の実態とそこから見える課題

本園の子どもたちは人なつこく、明るく、好奇心が旺盛です。しかし、社会経験が乏しかったり、自尊感情が低かったりする現状もあります。また、外国にルーツのある子どもや保護者の中には、言語面に配慮が必要な実態もあり、丁寧に支援しています。

一方、保育者は子どもの内面を読み取る力をつけ、一人ひとりに寄り添う保育を進めるため、子どもたちの“やってみよう”“挑戦してみよう”と思える環境を整えるようにしています。

また『一人ひとりを大切に作る保育』に焦点を当て“挑戦しようとする気持ちを育てる保育環境”や“子どもの心を豊かに育てる保育者のかかわり”を大切に作った保育を展開していくためには“保育者の人権意識の向上”が必要不可欠な課題と考えました。

毎日の保育業務の量の多さや役割なども考慮し“語り合う時間の保障と同僚性を高めること”も課題として位置づけ、研究を進めていくことにしました。

◆研究テーマ

『かけがえのない一人ひとりを大切に』 ～あったかさと心つながるひかりっこ～

◆研究テーマの考え方

子どもたちの豊かな心を育むには、保育者が子どもたちをどうという視点で捉え、言葉かけをするのが大事ではないか。保育者が子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、肯定的な言葉かけとあたたかいかわりをもつことで、子どもの安心できる居場所となり、自己肯定感や自尊感情が育つのではないか。その子どもたちがあたたかい気持ちで友だちや周りの人たちとかかわることで互いを思いやる仲間づくりへと発展していくのではないかと考えています。

また、子ども主体の保育を進めていくには子どもの心の動きをキャッチし、ワクワクするような保育環境を準備し、一緒に楽しむ保育者のかかわりが大切です。

そして、保育者間で語り合うことを通して、自分の人権感覚と他者の人権感覚の違いに気づき、より人権意識を高めていくことが、園全体の保育の質の向上にもつながっていくと考えました。

そこで、子どもの豊かな心の育ちに着目し、一人ひとりがあるままに自分らしく、心がつながる園づくりをめざし保育者も保護者もあたたかい気持ちになれる研究にしたいと考え、研究テーマを上記のように設定しました。

研究って
幼児中心？

仲間づくりって
乳児には難しく
ない？



研究を進めていくうえで職員たちの不安を払拭してくださる講師の先生を探していたところ『人権保育の大切さ』『子どもたちにどういう力をつけていくのかを考える』という内容の記事を見つけました。

この先生なら私たちの園の課題に応えてくださるに違いない！この先生の話がききたい！と強く感じ、常磐会短期大学の保田維久子先生に講師をお願いし

ました。お越しいただくたびに「そうそう、それが知っていた」「なるほど、そういうことか」と納得したり共感したりしながら、学びを深めることができます。

3. 研究方法について

○園内研究会（公開保育）

当日までの保育の流れを大切にしながら、研究テーマや当日の保育のねらい、討議の柱に迫る保育者の援助や環境構成について参加者と考え合い、保育の質の向上につなげられるようにしています。討議の手法は事前に協議し、討議が深まる工夫をその都度行います。

○事例研究会

日々の保育の中で心に響いた場面の写真から、子どもの内面を理解したり、遊びの過程（プロセス）を探ったりすることで、子どもたちの心の動きを読み取るようにしています。また1つの写真を囲みながら、多面的な見方があることや遊びに至った要因に気づき、子どもの成長を支える保育者の心もちや援助、環境構成を考え、それぞれの保育者の気づきが広がる機会となるようにしています。

○研究推進会議（きらりん会議）

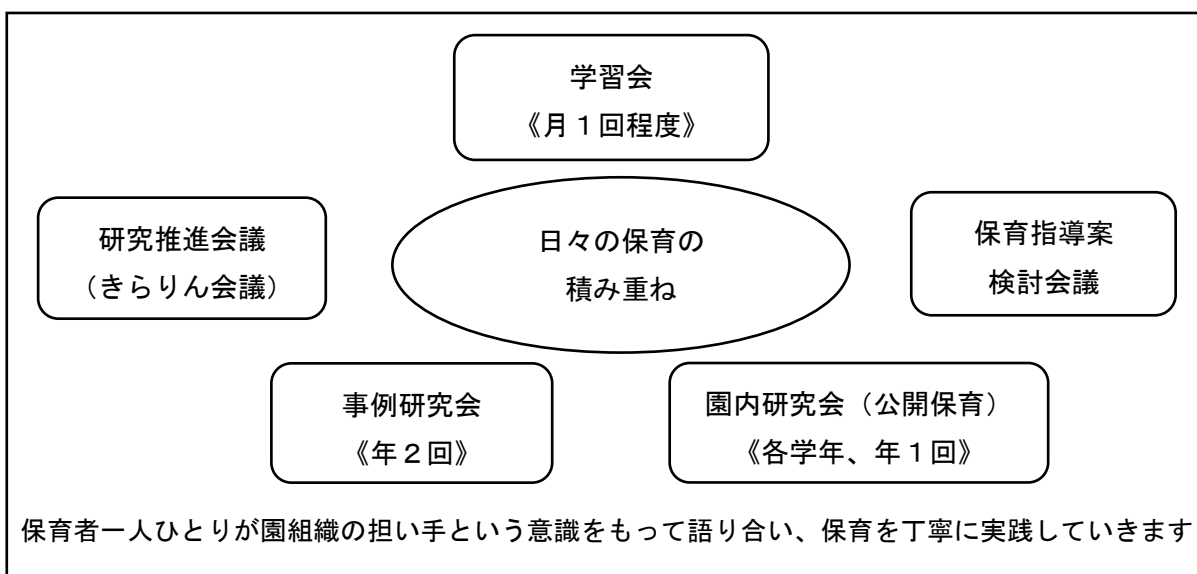
研究を進めていくうえで月1回、各学年から代表者が出席し、課題やテーマについて語り合う場としています。その月のテーマに沿って学年間で話し合ったことを学年の意見としてもち寄り話し合います。学年から順番に代表者が会議に出席することで、一人ひとりが意見を発信する機会とし、研究への参画意識を高めていくようにしています。

○学習会

日々の保育で課題をキャッチしたり、きらりん会議で課題にあがったりしたことを学習会に活かしています。KJ法やワールドカフェなどを用い、保育者同士が言葉で直接思いや考えを交わし合う機会を大切にし、語り合うことで自分の保育を振り返ったり、相手の思いや考えを知ったりできる場としています。こうした語り合いを積み重ねる中で同僚性を育めるようにしています。

○保育指導案検討会議

園内研究会実施前に担任が立案した保育指導案を検討する保育指導案検討会議を行い、同学年の保育者や他学年の保育者、園長、副園長、主幹保育教諭と語り合いながら保育のねらいや内容を検討し当日の討議の柱を探り、子どもたちの実態や担任の思いに添った保育指導案を作成しています。



4. 研究実績一覧

(1) 園内研究会

	日付	学 年	討 議 の 柱
1	6/21	3歳児	心わくわく遊びたくなるような環境づくりと援助のタイミングとは
		4歳児	心豊かにつながり合える集団づくりとは
2	7/6	1歳児	一人ひとりをありのままに受けとめる保育者の見取りとかかわりとは
3	8/8	2歳児	限られた空間の中で、一人ひとりの遊びを充実させる環境構成や援助とは
4	8/23	0歳児	子どもが“愛されている”と感じる保育者のかかわりとは
5	11/11	5歳児	あったかい仲間づくりにつながる友だち同士のかかわりや保育者の援助について

(2) 事例研究会

	日付	学 年	タイトル	ねらい
1	7/22	1歳児	わたしのあかちゃん	心の動きや遊びの過程を探り、多面的な見方があることや遊びに至った要因に気づき、成長を支える保育者の心もちや援助を考え、保育者の気づきが広がる機会とする
		4歳児	持っというてあげるわ～！	
2	11/22	2歳児	上までつくかな？	
		3歳児	水族館にまたいきたいなあ	

(3) 研究推進会議（きらりん会議）

	日付	内 容
1	4/5	研究について・1年目の計画予定などを共有しよう
2	5/11	『育てたい子ども像』に近づけるためにどうやっていく？
3	6/6	『同僚との日常の中で思いやりを感じた言葉や行動』について
4	7/15	『育てたい子ども像』を目標に保育する中で変容してきた子どもの姿について
5	9/5	学習会で学びたいことを話し合おう
6	10/17	12月の学習会で学びたいことや学ぶための方法を話し合おう
7	12/1	12月の学習会の詳しい内容を話し合おう
8	2/20	研究1年目の振り返りと次年度の研究に向けて話し合おう

(4) 学習会

	日付	内 容
1	4/28	『こんな子どもに育ててほしい』と願う子ども像について各学年で話し合おう
2	5/19	『保育の実践と記録～子どもを尊敬する大人のまなざしの大切さ～』をテーマに保田維久子先生の講義を受けよう
3	6/28	『ほっこり、ステキな言葉・ドキッ、ハッとした言葉』について話し合おう
4	7/28	サポート児のことを知ろう！考えよう！
5	8/25	園内研究会・事例研究会を終えて～みんなで大切なことを共有しよう～
6	10/27	あったかつながりエピソードの交流をしよう
7	12/21	『1日の流れ』と『年度初めに知っておくとよい todo リスト』づくりをしよう
8	2/22	1年間の学びを共有し次年度の研究に向けて話し合おう

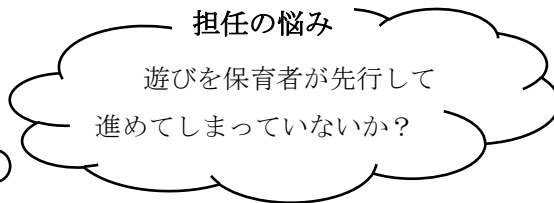
5. 研究内容について

(1) 園内研究会について

各学年が公開保育を実施し、保育指導案作成や公開保育当日の討議、指導助言からたくさん学び（きらりんポイント）を得ることができました。

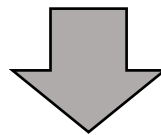
◆第1回園内研究会 <3・4歳児>

3歳児 討議の柱：心わくわく遊びたくなるような環境づくりと援助のタイミングとは



- ① 援助のタイミングがこれでよいのかを見極めるには？
- ② 担任の思いが先行していないのかを見極めるポイントは？

雨天の中庭にて、雨を楽しむ様子



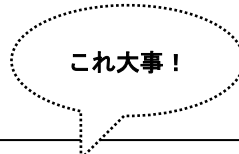
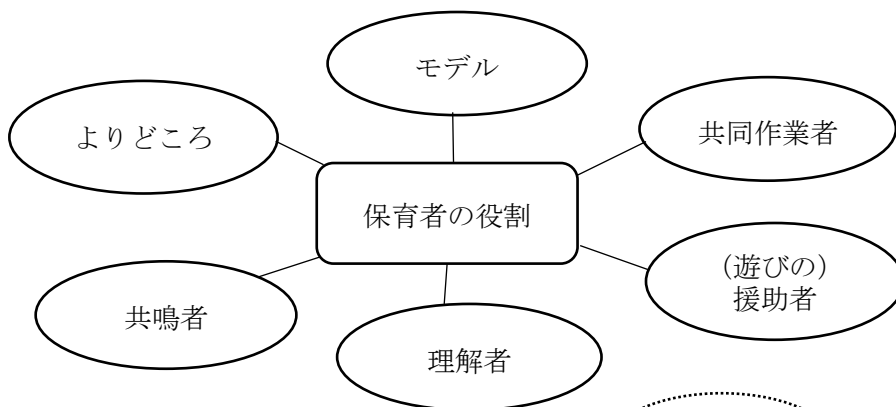
<保田先生の指導・講評>

① まず、子どもが何を楽しいと感じているのかを見取ること！

子どもが3～4人で同じように遊んでいても、楽しいと思っていることはそれぞれ違う。“楽しんでいることは何か？” それを探ることによって援助や環境づくりは違ってくる。

② 保育者のかかわり方は年間を通して変わってくる。

今は色々なやり方を見せたり、仕掛けたりしていく時期である。

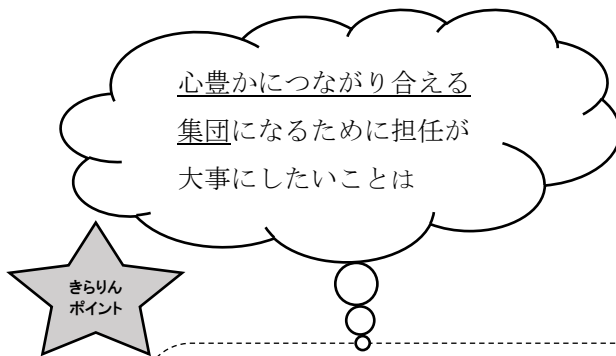


よいのかどうか考えるのではなく、とにかくやってみること！

子どもたちの興味や遊びが広がるきっかけづくりも保育者の役割であり、“楽しそう！” “おもしろそう！” を実現しようとする保育者の行動力も大切である。



4歳児 討議の柱：心豊かにつながり合える集団づくりとは

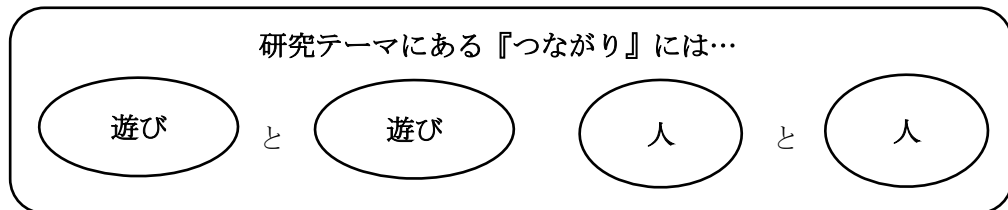


回転寿司屋を楽しむ様子

- ・子どもの“やりたい”を叶える
- ・子どもたちの言葉を保育者がしっかりと拾うことで次の遊びにつながる
- ・信頼できる保育者の発信によってつながるきっかけをつくる
- ・子どもたちだけでも遊べるように保育者の引き際も大切にする
- ・つくったものを子どもたちの前で発表することで認められる場とする



<保田先生の指導・講評>



つながりには『遊びと遊びのつながり』『人と人とのつながり』がある。好きな遊びを見つけて遊ぶことと自信をもって遊ぶこととは違う。「この遊びならできるから遊んでおこう」「○○ちゃんがしているから遊んでおこう」と思っている子どももいる。それぞれの思いや遊びは違っても、振り返りをすることによって一人ひとりの遊びが明確になり、主体的に遊ぶ姿へとつながっていく。

4歳児は“話すことは楽しい”と思っている実態があると思うが、振り返りの時間が長くなるとしんどくなる子どももいるので、短く済ませる日があってもよいのではないか。「どんなことして遊んだ？」やつくったものを発表する場だけにとどまらず『今日がんばったこと』『友だちが困っている時に助けたこと』など臨機応変に対応し質問内容を変えてもよい。言いたいことがあると子どもは意欲的に参加する。

課題

- ・今は保育者が一緒にかかわることで楽しめる関係になっている。自信のある遊びが見つけられているのか子どもたちの遊びの様子を把握していく。
- ・今は保育者が共感し、次にどのような関係を広げるかという役割を担っているが、4歳児後半にはこの役割を子どもたち同士で担えるようになってほしい。
- ・一人ひとりが自信をもって遊び込むことが、『遊びと遊び』『人と人』のつながりにつながっていく。

◆第2回園内研究会 <1歳児>

討議の柱：一人ひとりをありのままに受けとめる保育者の見取りとかかわりとは

“一人ひとりをありのままに受けとめる”に着目し、この時期ならではの自我の芽生えに寄り添うために大事にしたいことを話し合いました。

<指導・助言>

- 日々の丁寧なかかわりから、子どもの気持ちに寄り添う保育をしっかりと積み上げてきている。

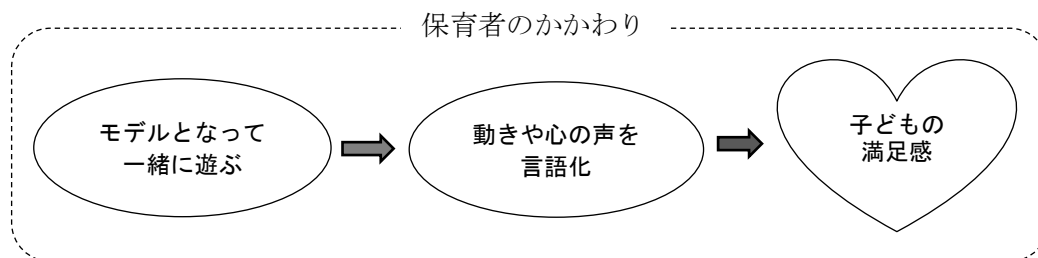


あたたかいふれあいを大切に



子どもにとって保育者がそばにいてくれるだけで安心できる存在となり、情緒が安定して遊びへ向かうようになっていった。

- 保育者がモデルとなって一緒に遊び、子どもたちの動きや心の声を言語化することで、保育者に“気づいてもらえる”“共感してもらえる”という満足感がもてる。子どもたちの発見や気づきは一瞬のことなので、アンテナを張りながら丁寧にかかわることが大事になってくる。



『一人ひとりをありのままに受けとめる』

➡ 他者を受け入れられる姿につながる



討議の柱にある、子どもたち一人ひとりをありのままに受けとめ、しっかりと愛着関係を築いていく。

どうぞ～

ありがとう



公開保育を終えた担任より…

- ・“このままでいいんだ”と子どもに対するかかわりに確信が得られた。
- ・子どもの笑顔をたくさん見られる保育、自分たちも“楽しかったね”と思える保育をこれからもしていきたい。

◆第3回園内研究会 <2歳児>

討議の柱：限られた空間の中で、一人ひとりの遊びを充実させる環境構成や援助とは

限られた空間を逆手に取り、活かす環境の工夫



中庭を使った水遊び

扉のガラスに
絵の具で絵も
かけるよ～

保育者が大切に積み重ねてきた教材研究

- ・その日の子どもたちの遊びを振り返り、保育者同士で教材（寒天）について語り合った。
- ・語ったことから「次はこうしてみよう」と実践を繰り返し、子どもたちの遊びに丁度適した硬さや分厚さの教材（寒天）を準備した。



子どもたちが喜ぶ姿、夢中になる姿を見ることで保育者の中に“やってよかった” “保育が楽しい” という思いが湧いた。



廊下を使った感触遊び

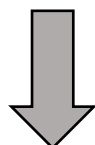
<保田先生の指導・講評>

『つもりの違い』…同じ遊びをしているようでも、つもりに違いがある。つもりを見取り、一人ひとりがどういうつもりで遊んでいるかを理解し寄り添い、“つもりの違い”をうまく捉えて環境構成する。『違いがあるからおもしろい』をつなげるのが保育者の役割であり、同時に遊びの充実が友だち関係も深めていける。言葉をかけることや環境構成をすることが大事である。



寒天を使った感触遊び

「先生みてみて」の後の保育者の言葉のかけ方がものすごく大事！



子ども主体で言葉をかけるのか？

先生が主体で言葉をかけるのか？

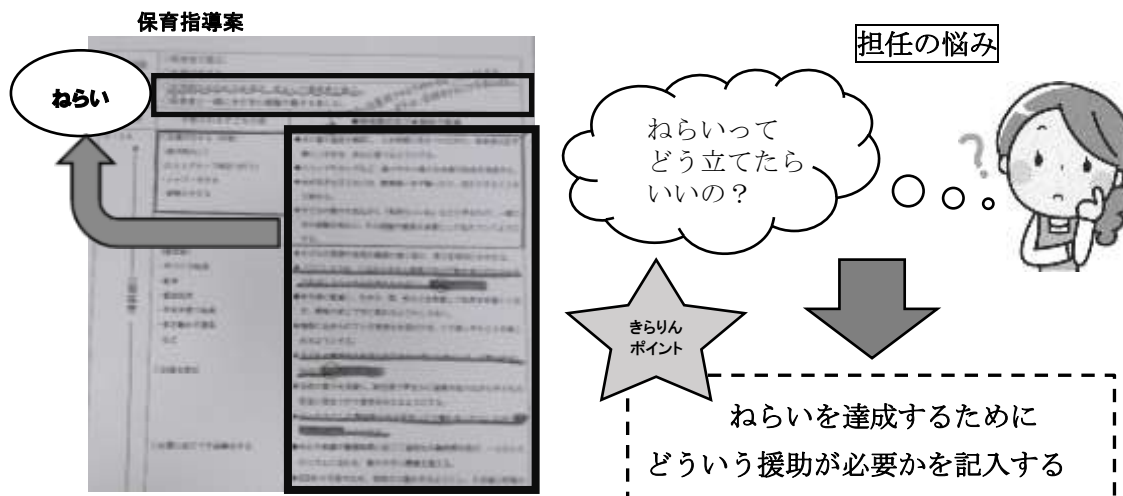
- ・今やっていることを認めて言葉をかけること。
- ・ちょっと先を意識し、遊びが豊かになる言葉をかけること。

公開保育を終えた担任より…

「あっ、そういうことか！！つもりの違いが子どもの姿に出ているんだ。それを見取る力が保育者には必要なんだ！」という声がきかれ、子どもに対する見取りや言葉のかけ方をより大切に考える機会となりました。

◆第4回園内研究会 <0歳児>

討議の柱：子どもが“愛されている”と感じる保育者のかかわりとは



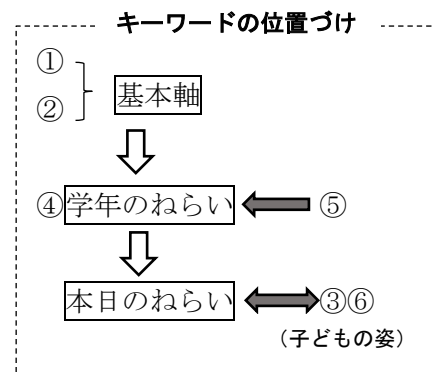
<指導・助言>

担任が保育指導案を立案する際にねらいの立て方について悩んでいることに対して、ねらいを達成するために どういった環境構成や援助が必要なのかを記載すればよい。また、保育指導案は担任が一生懸命書いたものであり、しっかり読み込むと、その中に参加する人が楽しみになるキーワードが見つけれられる。

『園目標』をめざし、0歳児はその根っことして「愛されること」を何層にも積み重ねながら人間形成の基盤づくりとなる。

今回の保育指導案から見つけた『キーワード』

- ①安心の場＝安心の基地＝安全な避難場所
- ②保育者同士の報・連・相
- ③主体的に遊ぶ子ども
- ④どんな子どもになってほしいかという保育者の思い
- ⑤丁寧な保育者のかかわり
- ⑥何か楽しみを見つけ始めている子ども



上記の6つのキーワードより、「①安心の場」の補足として『アタッチメント（愛着形成）』から非認知能力へのつながりについても学びました。

「非認知」と呼ばれる「自己に関わる心の力」、「社会性に関わる心の力」を育むために求められることの一つに、幼少期に子どもが経験する「アタッチメント」がある。

この「アタッチメント」は、「子どもが怖くて不安なとき、感情が崩れたとき、特定の大人がそれをしっかりと受け止めて元通りに立て直すこと、安心感を与えること。それが発達にとって重要」という考え方になる。

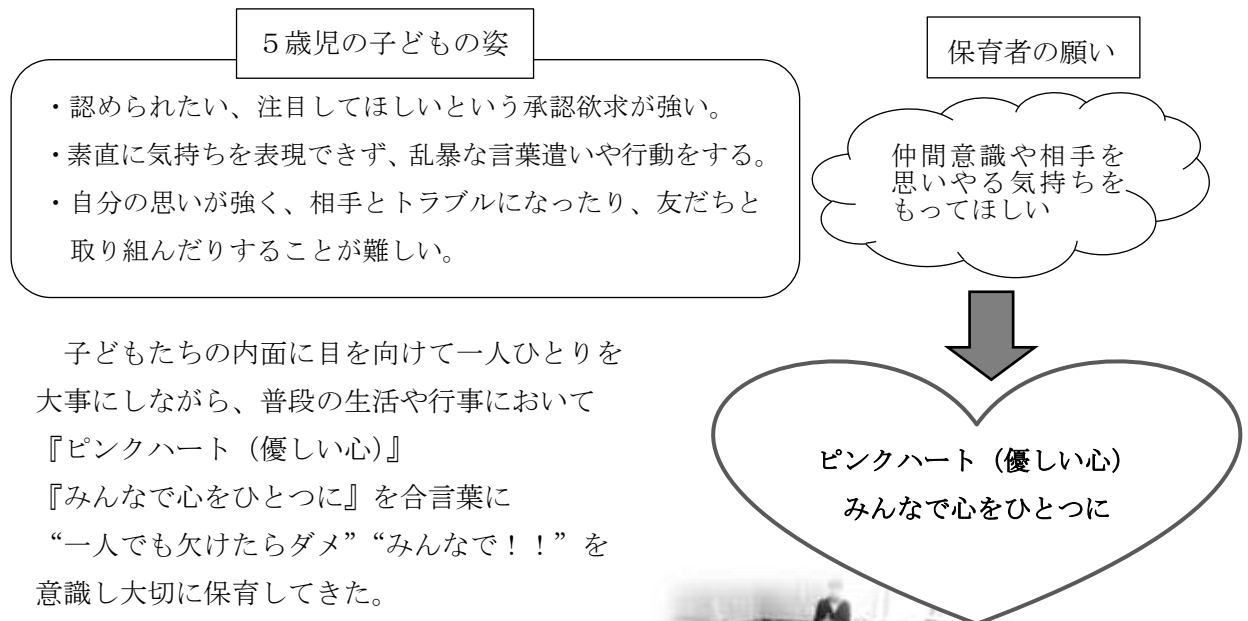


中庭での水遊びの様子

◆第5回園内研究会 <5歳児>

【令和4・5年 幼児教育研究中間報告/保育と講演】

討議の柱：あったかい仲間づくりにつながる友だち同士のかかわりや保育者の援助について



子どもたちの内面に目を向けて一人ひとりを大事にしながら、普段の生活や行事において『ピンクハート（優しい心）』『みんなで心をひとつに』を合言葉に“一人でも欠けたらダメ”“みんなで！！”を意識し大切に保育してきた。

<保田先生の指導・講評及び講演>

—5歳児の公開保育より—

ピンクハート }
みんなで心をひとつに } どんなイメージをもっていますか？



・ここに**心の物差し**が必要で、子どもと遊びながら一緒につくっていくのが保育者の役割



- ・研究テーマにある「一人ひとりを大切に」ということはどういうことか？
→子どもたち一人ひとりに価値があり、一人ひとりがそこにいることに周りが価値を見出しているということ。

乳幼児保育とは、子どもの人権を尊重し、一人ひとりを大切にする保育

泣いている子どもはだめな子どもなの？

子どものどんな表現の仕方も否定しない。泣いている子どもを尊重する保育を考える。困っている思いを表出していることを大事にする。

☆泣いている子ども、嘔んだりひっかいたりする子どもを尊敬していますか？

泣かせている担任は保育ができていないの？

子どもをコントロールする力が優れている人が保育できる人とは限らない。

☆子どもが思いを出せていますか？

丁寧な保育と雑な保育

丁寧な保育とは、子どもの人権を大切にする保育であり大人にしないことは子どもにもしない。

☆肯定的なかかわりになっていきますか？ 否定的なかかわりになっていませんか？

叱ることが多くなっていませんか？

伝え合うことが大事！

相手が言えるようにきくことが大事で、“言ってくれたらききます”ではなく、“きいてくれたら言えます”という関係づくりをしていく。

☆伝えたい気持ちやきく気持ちが育っていますか？

共感関係をつくる

「思いを受けとめる」と「こちらの思いを伝える」は対立させるのではなく、「いや」の気持ちを受けとめつつこちらの要求も伝える関係性が大事。

☆「相手に受けとめてもらった」「理解されている」「尊重してもらえた」という信頼関係の構築ができていますか？

遊びの主人公になれる遊び（自信をもって遊べる遊び）をつくる

保育者がモデルとなり、遊びが“つもり”につながっていない子どもへのかかわりを周りが学んでいくことで、一緒に楽しめる遊びへとつながっていく。言葉をかけることでおもしろくなりかかわりができて、子ども同士や遊びがつながっていく。

☆「それって、〇〇やね」などと意味づけしてかかわっていますか？

大切にしたいかかわり

- ・子どもの目線に立って語りかけ、相手のちょっとした変化をキャッチし言葉にして返す。
- ・何気ない時に子どもに触れる、語りかける。
- ・保育者が準備した遊びに参加しないと、すぐやめるのではなく繰り返すことでおもしろさが分かることもある。
- ・おもしろさがわかるまで遊ぶ。（もう一回したいを引き出す）
- ・一つの遊びを繰り返し、何度も遊ぶことで子どもから保育者を誘うようになる。
➡その誘いを見逃さないでキャッチする。
- ・子どものしている遊びや、発している声を真似することで、保育者との定番の遊びにする。
- ・子どもは保育者の姿を見ているということを忘れずに、かかわりの価値観のモデルになる。
➡寄り添うまなざしが必要。
- ・保育者があの手この手でかかわって笑いを引き出す。

どの子どもも一日一回
は笑うようにかかわりま
しょう！



(2) 事例研究会について

◆事例研究会の方法

事例提供者から写真を提示してもらい、子どもの内面を多面的に見取り、各グループで話し合いを進めました。事例の姿に至った保育者のかかわり方や保育者の中で大切にしてきたことを確認し合った後、グループで討議した内容を発表し共有しました。

◆第1回事例研究会

1歳児 「わたしのあかちゃん」

討議の柱：友だち同士をつなぐために保育の中で大切にすることとは

4歳児 「持つといてあげるわ〜！」

討議の柱：一人ひとりに寄り添う保育者の心のもちようから見える子どもの育ちとは

討議を通してわかったこと、保育の中で大切にしてきたこと

(1歳児)・保育者が遊びのモデルになっている。

- ・子ども一人ひとりの好きなことを見取って環境を構成してきた。
- ・子どもの興味に合わせて人形の数を増やしたタイミングがよかった。



(4歳児)・成功体験を経て、友だちに対して視野が広がったり、思いやりがもてたりする。

- ・チャレンジする意欲や達成するために自分で考えて行動する力が育ってきた。
- ・普段から子どもたちから生まれる発信を大事にしている。



<指導・助言>

【キーワード】

『クレド』＝組織全体で心がける信条や行動指針のこと。

本園のクレドは、研究テーマがそれにあたる。

安中ひかりこども園のクレド

||

研究テーマ

『かけがえのない一人ひとりを大切に』

～あったかさで心つながるひかりっこ～

- ・職員一人ひとりが何をするかを考え意識し行動することが大切である。
- ・テーマを軸に語り合い、考え方は一つではないこと、多様性に気づき、自分の考えを深めていくことが大事で、それが園の価値を高めていくことにつながる。

【保育者として大事にしてほしい3つのこと】

1、心もちに共感する

子どもの内面を読み取り、そっと寄り添える先生“この先生なら分かってくれる”という存在になること。保育者のものさしで子どもを見ては子どもの内面にはアクセスできない。共感力は訓練で高めることができる。

2、子どもの目線に立つ

気持ちを受けとめるだけでなく、気持ちの奥にあるものをきくこと。話を掘り出し、分かろうとする気持ちがあればつながる。

3、想像する思いをはせる

子どもの言葉通りにきくだけでは足りない。見えていない場面の要素を考える。一つの場面で幾通りもの解釈があり、保育に正解はない。そこが保育の醍醐味でもある。

◆第2回事例研究会

2歳児 「上までつくかな？」

討議の柱：心を開き一緒に遊ぶ楽しさを感じられた要因となったものとは

3歳児 「水族館にまたいきたいなあ」

討議の柱：子どもの遊びが広がっていく要因とは

それぞれの要因となったものとは

(2歳児)・保育者が肯定的にかかわり一緒に遊ぶ保育(モデルとなるかかわり)を積み重ねることが友だちとの楽しい経験につながっていく。

- ・子どもの姿への反応をおおらかに朗らかに見守る。
- ・自分を受け入れてくれる友だちの存在が重要である。
- ・好きな友だちがしていることを一緒にしたい。



(3歳児)・やりたいことを実現できる環境であった。

- ・遊びの予測や見通しをもっていた。その為の担任間の連携がよかった。
- ・子どもの思いを受けとめすぐに行動していた。
- ・異年齢児との交流で適度な刺激があった。
- ・とにかくやってみる姿勢が大事である。
- ・みんなで同じ経験をし、再現しながら遊べた。



<指導・助言>

【2歳児事例】

- ・保育者が子どもをありのままに受けとめ、共感することで心を開いた。
- ・まねして遊ぶことがきっかけでつながりができる。

【3歳児事例】

- ・担任が遊びのどこをねらいにもつかによって環境は変わってくる。
- ・みんなが同じ経験をすることはみんなで同じイメージをもてるということ。
- ・年上の子どもとの交流は憧れの気持ちももてる。活動への期待や意欲ももて、してもらったことを年下の子どもへつなぎ、また、年上の子どもにとっても思いやりやいたわりの気持ちももてる。だからこそ工夫して交流の時間をつくることができればよい。

事例研で感じたこと

子どもの心を深く知る
ことにつながる

子どもをよく見ること
知ろうとすることが大切



自分の保育観を広げる
チャンスになる

保育について
語り合うことって
楽しい

(3) 研究推進会議（きらりん会議）について

◆第1回 研究について・1年目の計画予定などを共有しよう

第1回のみ全員参加のきらりん会議を行いました。ここでは【研究について】【研究推進会議（きらりん会議）について】【1年次の計画予定】【公開保育について】【事例研究会について】を説明し、職員間で共通理解して計画的に研究を進めていけるようにしました。

◆第2回 『育てたい子ども像』に近づけるためにどうやっていく？

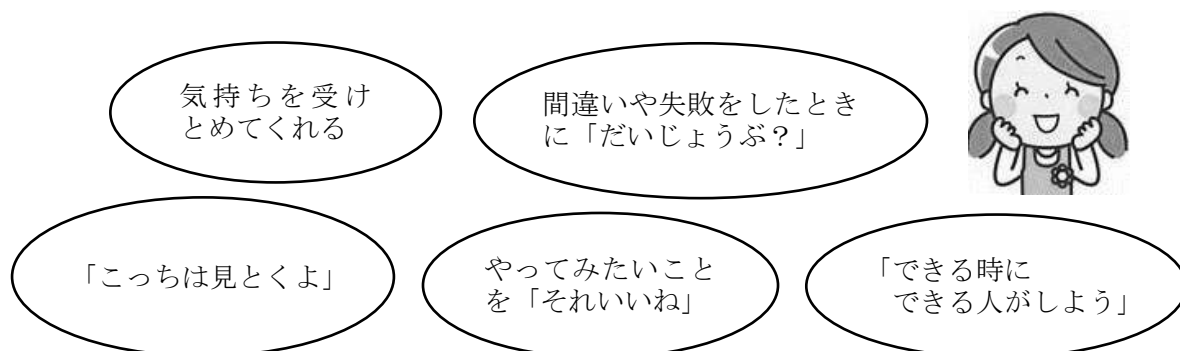
第2回からは学年より代表者が出席しました。4月28日の学習会で『こんな子どもに育ててほしい』と願う子ども像についてグループワークしたこと（17ページ参照）を受けて、『育てたい子ども像』に近づけるためには何が大切かを学年間でまとめたものをもち寄り、報告しました。



	育てたい子ども像に近づけるには	きらりんポイント
0歳	担当制で身近な大人との信頼関係をつくる 子どもと心を通じ合わせる	・0歳の環境の工夫は無限大
1歳	否定せず一人ひとりを受けとめる 担当者との信頼関係をつくる 担任間の語り合いを大切にする	・一人ひとりを大切にしたい信頼関係づくり ・同僚性を高める
2歳	ありのままの自分を受けとめてもらう経験を十分に味わえるようにする 認めてもらう→自信→友だちへの思いやり	・一人ひとりを大事にした土台づくり ・そこから友だちにつなげる
3歳	流れを決めて見通しをもって子どもを信じて任せる やろうとしている姿を認める 友だち同士でかかわれるしかけや環境設定	・保育者も仲間になって3クラスで楽しいことをシェアする
4歳	STEP1 信頼関係をつくる STEP2 安心して取り組める環境設定 STEP3 じっくり取り組める時間の保障	・保育者も余裕をもって楽しみながら取り組む
5歳	保育者がまず認める 自分を認めてもらってこそ互いに認め合える	・乳児でも5歳でも大切にしたいことは同じ ・大人だって認めてほしい
一時預かり保育	ここが楽しい場所だと分かってもらうことから子どもの興味を事前にリサーチ →場を整える	・保護者との関係づくり
フリー	フォローに入る先生がかわっても同じかわり方で担任のサポートができるようにする	・情報共有が大事

◆第3回 『同僚との日常の中で思いやりを感じた言葉や行動』について

保育を進めるうえで保育者同士のあたたかな人間関係は必要不可欠です。良好であればあるほど保育が豊かになり、保育者から醸し出される雰囲気子どもたちへのあたたかな空間づくりに直結するのではないかということから『同僚との日常の中で思いやりを感じた言葉や行動について』をテーマに学年で語り合ったことを報告し合いました。



嬉しかった気持ちや感謝の気持ちを伝え合うことや、思いやりのある言葉で救われる思い、また、そんな風を感じてくれていたんだと逆に嬉しくなる思い、今度は自分も同僚に思いやりをもってかかわろうという思いがうまれるなど、こうした時間をもつことであたたかな交流ができ、心を通わせる機会となりました。

◆第4回 『育てたい子ども像』を目標に保育する中で変容してきた子どもの姿について

第2回で報告し合った『育てたい子ども像』に近づけるための保育実践をする中で、変容してきた子どもの姿について話し合い、共有しました。

	変容してきた子どもたちの姿
0歳	泣くより笑うことが多くなってきた 自分の思いを出せている
1歳	安心して担当者のところへ来るようになった 色々な気持ちを表出して過ごせるようになってきた
2歳	イヤイヤ期だが1対1でしっかりと思いを受けとめてきたことで、保育者の言葉に耳を傾けるようになってきた
3歳	生活の見通しがもてるようになってきている 一人ひとりの動きを見て区切りのよいところで声をかけることで、片づけがスムーズになってきている
4歳	見通しをもって生活できるようになっている 思いやりのある言葉や行動が見られるようになってきた
5歳	消極的な子どもが認められたことで積極的になってきた 友だちを気にかけるようになってきた
一時預かり保育	安心して楽しく遊ぶ子どもが増えてきた
フリー	友だちのよいところをたくさん言葉にするようになってきている 子ども同士で解決しようとする姿が見られるようになってきている

◆第5回 学習会で学びたいことを話し合おう

これまでは保育を進めるにあたって必要なことを予測し主幹が企画して学習会を行ってききましたが、自分たちが何を学びたいかにスポットをあてて企画できるように話し合いをもちました。各学年で様々な提案があり、一つのテーマに絞ることは難しかったのですが“他学年の保育を知りたい”“知り合えたら互いに理解し合えるのでは”という声が学年の意見として多く出てきました。

その中で「実習生になるのはどう？」の言葉に「それいいね！」ときらりん会議参加者の心が躍り『いろいろなクラスのことを知りたい企画』としてAパターンBパターンに分け実施することにしました。

Aパターン

エントリーシート

Aパターンの実習体験には上記エントリーシートを使って登録し、実習生のように色々なクラスへ行き保育を見学することができることにしました。16人の保育者がエントリーし、順番に実習生として他学年・他クラスを見学しています。

また、Bパターンは担任間でトレードできるシステムで「〇〇先生の保育を見たいから、同じクラスのもう一方の先生にこの交渉権を渡してトレードしてもらおう！」と、とっておきの切り札として使おうと考えている保育者もいました。

Bパターン



担任トレード交渉券

実習を終えた保育者より…

- ・どのクラスに入っても担任の先生が子どもへの共感や認める言葉、褒める言葉をかけていて気持ちがよかったです。
- ・リーダーの保育者が動きやすく連携が取られていて、連携の大切さを感じました。
- ・“こんなことしてたんだ”“この作品のアイデアおもしろいな”“教材研究って大切だな”などゆっくり見ることができ様々な驚きや発見があり、本当に勉強になり楽しかったです。
- ・先生方の一生懸命な姿を見て刺激になったし、愛情をもって保育をするって大切だなと再確認しました。
- ・初心を忘れず、子どもファーストを心がけたいです。

◆第6回 12月の学習会で学びたいことや学ぶための方法を話し合おう

◆第7回 12月の学習会の詳しい内容を話し合おう

前回の続きで学習会でさらに学びたいことを話し合いました。

- ・年度始めに向けての準備など、各学年のリストがあれば助かる。
- ・カリキュラム会議では話しきれない子どもの実態や気をつけていることを共有したり手立てを話し合ったりしたい。
- ・乳児、幼児の保育者が一緒になって今こんな保育をしているという交流の時間にしたい。

などの意見が出たので、この中から『知っておくとよい todo リストづくり』をすることにまとまりました。また“学年の一日の流れも知りたい”という意見を受け、12月の学習会で作成することにしました。

きらりん会議で話し合った保育者の思いは、自分たちが戸惑わないようにということだけではなく「新年度不安になる子どもたちを少しでもゆったりとした気持ちで受けとめることができるようにしたい」という願いもあり、ここにも“一人ひとりを大切にしたい”という思いが込められています。

◆第8回 研究1年目の振り返りと次年度の研究に向けて話し合おう

研究1年目を終えるにあたり、研究テーマに沿って1年間の保育を振り返り、次年度にどう活かすか、また2年目はどういう研究をしたいか学年で語り合う機会としました。

(4) 学習会について

学習会では保育を進めるうえで大切なことや課題、共有したいことなどをテーマとして挙げ学ぶ機会としました。きらりん会議とテーマを結びつけて、その後どう活かし実践しているかを振り返ったり、共有したりする機会としても活用してきました。

◆第1回 『こんな子どもに育ってほしい』について話し合おう

『こんな子どもに育ってほしい』というテーマについて各学年でグループワークをしました。自分の保育観を話し、それぞれがどのように思っているかを知り、また何を大事に保育を進めていこうかという方向性を共有しました。



	こんな子どもに育ってほしい
0歳	・愛される喜びを知る子ども
1歳	・“やってみたい”がいっぱい ・子ども園楽しい明日も行きたい ・先生大好き、友だち大好き ・よく食べよく寝てよく遊ぶ
2歳	・思いやり、意欲、好奇心、自己肯定感がもてるように ・言える環境をつくり生きる力を伸ばせるように
3歳	・片づけが丁寧にできるように ・遊び込めるように ・友だちとのかかわり方を知っていけるように
4歳	・周りを意識しながら自分のことは自分でするように ・自己選択、自己決定する力をつけられるように
5歳	・自分で考えて行動するように ・互いを認め合える仲間づくりができるように ・自信をもってどんなことでも挑戦するように



第2回きらりん会議へつなげる

◆第2回 保田 維久子先生の講義を受けよう

園内の職員全員が同じ思いをもって研究をスタートすることができるように保田先生から『保育の実践と記録～子どもを尊敬する大人のまなざしの大切さ～』というテーマでご講演をいただきました。



保育で大切なこと

- ・子どもに寄り添い、思いを受けとめる
- ・子どもの遊びをよく観察する
- ・大人の見方やかかわり方がキーポイント（乳児）
- ・子ども同士のつながりがメインだがモデルとなるのは大人（幼児）

また、質が高い保育（私たちがめざすべき保育）とはどういう保育かということもお話いただきました。

質が高い保育とは？

- ・保育者の子どもたちへのかかわりがあたたかく、応答的であること
- ・ともに考え、深め続けること
- ・子ども主導の遊びや活動、子どもが中心で保育者がつなぎ発展させる遊びや活動が多いこと

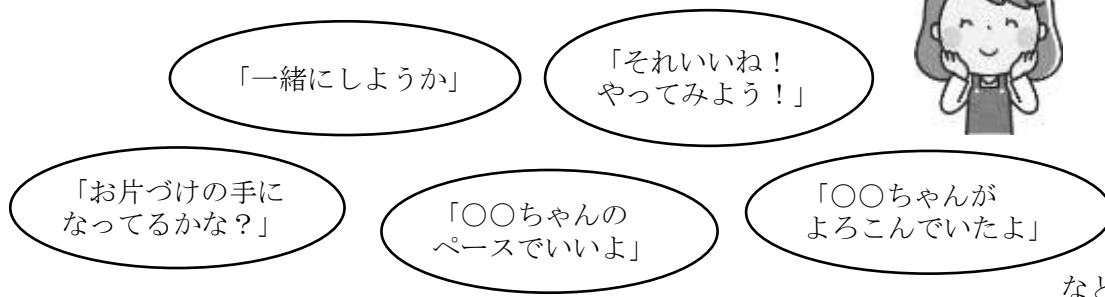
上記のことを全員参加の学習会で共有できたことは大きな成果となり、保育者のプロとしての意欲（やる気）につながる貴重な時間となりました。

◆第3回 人権学習会

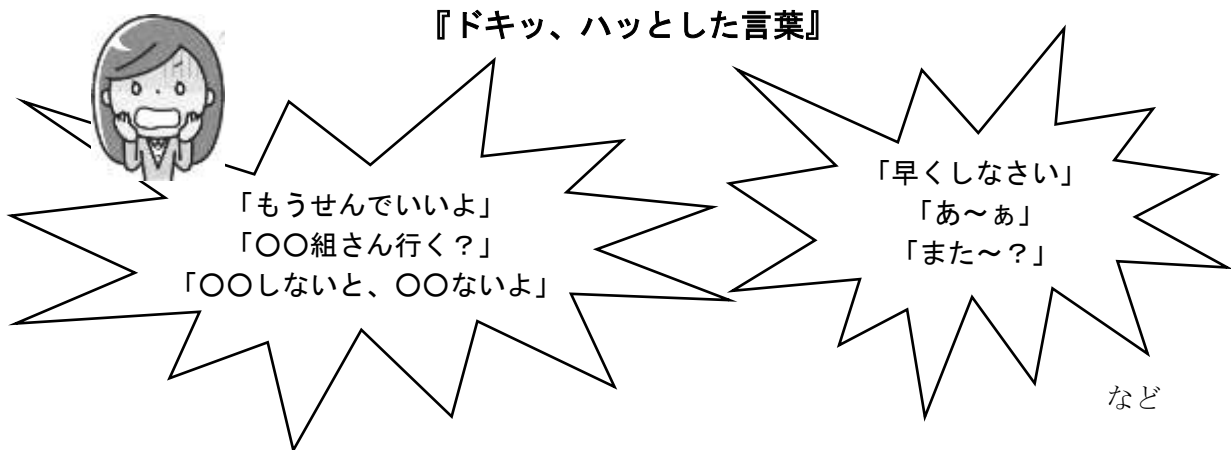
『ほっこり、ステキな言葉・ドキッ、ハッとした言葉』について話し合おう

『ほっこりステキだなあ』と思った言葉や『ドキッ、ハッとした言葉』について着目し、自分自身の人権意識を振り返ることをねらいとして学習会を行いました。事前にそれぞれが書きためておいた付箋を使って、ワールドカフェ形式で語り合いました。

『ほっこり、ステキな言葉』



グループで出し合った『ほっこり、ステキな言葉』の模造紙を他のグループにも回し、「この言葉いいね」「明日から私も使おう」など語り合い、模造紙に書き足す様子も見られました。



出し合った言葉に同じくドキッしたり、ハッしたりしたら点シールを貼り、また「あ、私も言ったことあるわ」などと思当たる様子を振り返ることで、自分の人権感覚を再確認する機会となりました。さらに、肯定的な言葉に変換するとどうなるかやその場に自分が居たらどうするかなどを語り合い、子ども一人ひとりの人権を尊重し、気持ちに寄り添う大切さを共有しました。保育者自身の気持ちの余裕も必要で、フォローし意見を交わす同僚性をめざしていきたい思いが強くなりました。

◆第4回 サポート児のことを知ろう！考えよう！

カリキュラム会議でサポート児のことを伝えていても、保育者の中には名前と顔が一致していない実態がありました。サポート児の障がいの特性や実態を把握し、保育者全員で支援の在り方を考え、そして研究テーマにもある『かけがえのない一人ひとりを大切にする保育』へとつなげていくことを共通理解しました。

◆第5回 園内研究会・事例研究会を終えて～みんなで大切なことを共有しよう～

園内研究会や事例研究会は保育時間中に行われていることから、全員参加が難しいので今までの学びを全保育者で共有することにしました。研究を進めていくうえでとても大切なことなので視覚で分かりやすいようにパワーポイントを作成し、それぞれの会で得た学びのポイントを“きらりんポイント”として、共有しました。

◆第6回 あったかつながりエピソードの交流をしよう

日々の保育の中で目にしたあたたかく心がつながるエピソードをもち寄り、グループで交流をしました。話す側もきく側もほっこり優しい気持ちになれたひとときでした。「保育者に気持ちの余裕がないとこうした子どもの姿を見落としてしまいがちだね」「こういう優しい視点で子どもたちを見ると、あちこちに“あったかエピソード”があるね」という話にもなりました。

◆第7回 『1日の流れ』と『年度初めに知っておくとよい todo リスト』づくりをしよう

学年ごとに、1年を振り返りながら作成しました。0～5歳、フリー、一時預かり保育のリストをそれぞれにまとめ、令和5年度より活用する予定です。

◆第8回 1年間の学びを共有し次年度の研究に向けて話し合おう

1年間の成果と課題を保育者間で振り返り語り合いながら、自分たちの身についた力について確認できるようにします。また次年度に向けての見通しをもてる場となるようにしました。

あったかつながり エピソード集～！

第6回の学習会で交流したエピソードです。心があったか～くなる場面を集めました。



「小さな先生・・・」 【0歳児】

外あそびに行く時、保育者が「Hちゃん、Yちゃん、Mくん、お外行くよ。おいで！」と声をかけた。ですが、そのうちのYちゃん、Mくんは動かず…。それを見たHちゃんは、Yちゃん、Mくんに“呼ばれているよ！早く行こうよ！”と言ってるかのように2人の背中を押して知らせていた。

担任から

Hちゃんは本当にお世話好きで、お友だちのマークを覚えているので、くつ箱の場所やエプロンなどを入れるカゴを“ココやで！”と指さしをして教えてあげる優しい所があります。その瞬間を見ると、お友だち同士でつながり合っている途中なのかなと思っています。



「も～も～や、も～も～や～」 【1歳児】

保育者と「ももや」のわらべうたをよく楽しんでいる子どもたち。ある日、Yちゃんが人形の赤ちゃんをナフキンの上に乗せ「も～も～や～」と自分で歌って遊んでいました。しかし、1人では上手く持ちあげられないので保育者が一緒に持って遊んでいると、それに気づいたTちゃんもやってきて、3人で楽しんでいました。保育者がそっと引いた後も、歌声に気づいたHちゃんやKくんもやってきて、子どもたちだけで笑い合いながら楽しんでいました♡

担任から

今までは、対保育者でわらべうたを楽しんでいる子どもたちでしたが、友だちとのかかわりも広がってきていて、保育者と子ども、子どもと子どもがつながった瞬間でした。



「やってあげる!!」 【1歳児】

新しい環境に慣れてきた頃、Aちゃんが同じグループの自分より小さなお友だちの洗たくカゴを出して、「ココ」と教えてくれたり、手拭きタオルを渡してくれたり、戸外へ行く時も「おいで～」と手をひいて連れてきてくれたり、自分のことは後回し!!でお友だちのことを気にして、お姉さんをしていています。月日が経っても、それは継続していて、他の友だちの鼻水を拭いてあげたり、転んだ時や咳こんだ時には「だいじょーぶ？」と背中をさすってあげる姿がたくさんあります!!

担任から

先生がするよりも先に気づいて、“やってあげる”の気持ちでしている姿にホッコリ♡自分のこと先にしよ～よ！と思う気持ちもあるのですが、そういう一人ひとりの気持ちを大切にしていってあげようと思います。

わたしがよんであげる♡ 【2歳児】

保育者が絵本の読みきかせをしようとする時、「Kが読みたい！」とたくさんの絵本を抱えて持って来た。友だちが集まっている前に座り、絵本の持ち方もまるで保育者のようであった。見ている友だちも真剣にきいていた。「K先生、上手に読んでるね」と褒めてもらい、嬉しそうに10～15分程、何冊も絵本を読みきかせていた。

担任から

読んであげたいという意思を尊重してもらい、保育者に認めてもらったことや、友だちにきいてもらえたことが嬉しくて自己肯定感につながった。



かわいくて♡気になる

【一時預かり保育2歳児】

0歳児がいると嬉しくてルンルン♪
3名が0歳児で、本児の好きなブロックが落ち着いて出来るようにスペースを用意するが、気になるのは泣いている0歳児…。
保育者がしていたように、ボールを渡したり、音の鳴る玩具を鳴らしたりして様子を見る。忙しく動いてくれ、納得するとブロック遊びに集中していた。



担任から

登園時に泣くこともある本児ですが、0歳児がいると晴れやかな表情になり、がぜん張り切ってくれます。そんなお兄ちゃんに笑顔を向けたり、安心して遊んだりしている0歳児さんです。

「ぼくも どうぞしてもらったで!!」

【3歳児】

おやつ時間のできごとです。
各机に1つずつ牛乳キャップ用のゴミ入れを置いていました。

パーティションの向こう側の友だちにゴミ入れを渡してくれる子どもがいました。すると「先生！ゴミ入れ取ってくれた！」と渡してもらった子どもが保育者に大きな声で教えてくれました。それをきいた他の子どもたちは「ぼくも渡してもらった！」「私は〇〇くんが取ってくれた！」と“してもらったこと”を次々に教えてくれて、心があったかくなりました♡



担任から

「見て！」「きいて！」と、色々なことを伝えてくれるぶどう組の子どもたち。“つくったもの”“できたこと”だけでなく、“優しくしてもらったこと”“嬉しかったこと”も伝えられるようになり、とても嬉しかったです。

「ポックリの乗り方教えてあげる!!」 【2・3歳児】

3歳児のS児、A児がポックリにチャレンジしていると、2歳児の子どもたちが刺激をもらって遊び始める。乗り方が分からない2歳児に対し、「ここを持つんやで」と教えたり、乗りやすいようにポックリを押さえてあげたりする姿があった。

次第に2人の周りに2歳児がポックリを持って集まってきた。一人ひとりに対応してあげていた。2歳児の担任に「ありがとう」と声をかけてもらったり、「優しいね」と言われたりして、満足な表情を見せていた。

保育者から

困っている2歳児に対し、自分が乗れるようになったやり方を伝えたり、押さえてあげたりと、どうにかしてあげようと相手を思いやる行動がとても嬉しかった。異年齢児からの刺激で好奇心・向上心が芽生えたり、年下の子どもから慕われることによって自信にもつながっていったりすると思った。



“やった～!! 飲めたやん!!” 【4歳児】

牛乳が苦手なA児。ある日のおやつの際に、B児がA児に「Aくん、牛乳飲むの競争しよ！どっちが早いか、ヨーイドン！」とB児が飲み始め、A児も初めは焦って飲み始めるも、苦手なためB児が圧勝。それを見たC児が「じゃ、次はCとヨーイドンやで」と言って、A対Cで競う。それでもやはりC児が勝ち…。D児、E児と次々と対戦するも、なかなかA児は勝てず。

クラスの半数以上の友だちと対戦した後、最後の1人と対戦した時、周りから「Aくん、がんばれー！」と声援を受け、やっとA児が勝つ。

今までA児と対決していた友だちがA児の周りに集まり、「やったやん！飲めたやん！Aくんの勝ちやー!!」と言って、5・6人の子どもたちがA児に抱きつき、A児も満面の笑みであった。

担任から

友だちの苦手なところを認め、それをどうにかして楽しめるようにできないかと考えた子どもたちの案が、最終的に素敵なエピソードにつながった。2学期以降、友だちとの関係がぐっと深まり、子どもたち同士で色々な話が盛り上がる場面も多々見られるようになってきた。今回のエピソードもそうであるが、クラスで喜びを共有できる素晴らしい集団になりつつあることが嬉しい。

大丈夫やで 【5歳児】

クラス対抗でリレーをするため並んでいた時のこと。

いつもは前の方へ並びA児が、この日は後ろの方になった。A「後ろ嫌や！（大泣き）」それをみていたB児が「大丈夫やで。Cくんと僕が（相手を）抜かして走ってあげるから」と声をかける。励まされたA児は気持ち落ち着き、そのままの順番で走りきることができ、B児、C児もA児からのバトンをつなぎ最後まで一生懸命走った。



担任から

進級時は「1番」にこだわっていたB児が、泣いているA児に対して相手を安心させる言葉をかけたり、自身も「頑張ろう」という気持ちで走ったりする姿がとても素敵だなと感じた。

ずっとずっと友だちだよ。。。 【5歳児】

退園するA児は2か月程前から引っ越しの準備で休みがちだったため会えることが少なく、子どもたちは「明日は来てくれるかな？」「今日来る？」と言ってA児のことを気にかける姿があった。退園の日の当日、A児が来てくれたのを見つけた子どもたちは一斉にA児を囲い「元気にしてた？」「待ってたで！」「これはここにするねんで！」と言って教えてあげ、嬉しそうにA児を迎え入れ、優しくかかわる様子が見られた。A児とのお別れ会をしようと前からクラスで話し合っていたため退園当日はお別れ会をすることに…。

お別れ会では「離ればなれになってもずっとずっと友だちだよ。〇〇のこと忘れないでね」「一緒にたくさん遊んでくれてありがとう」「ずっと友だちだからね」と涙を流しながら、子どもたちはA児にたくさんの思いを伝えた。A児は「心が寂しい…」と言って寂しげな表情だった。

次の日、子どもたちは「今日でほしくみ何人になったん？」「A児がいなくて寂しい…」と言って友だちを大切に思う姿もあった。



担任から

思いを伝えたい子どもがたくさんいたり、涙ながらに伝え、様子を見てもらい泣きをしたりして、ほしくみの仲間がいなくなってしまうということを子どもたちは実感したように思う。

友だちを大事にするということや大切に想うという気持ちが伝わり合えたことで、子どもたちとA児が心と心でつながりあえた瞬間だったように感じた。

Nちゃん！がんばれ！！ 【4・5歳児】

4・5歳児でペアになり徒歩遠足に行き、混合チームでリレーをした。5歳児は運動会でリレーをし、4歳児はその姿に憧れ、好きな遊びでリレーをする姿もあり、勝敗にもこだわる姿があった。前半戦の白チームには4歳児に支援児のN児がいて、今回初めてリレーに参加した。走ることが難しかったら中間地点で別の子と交代することも保育者は考えていたが、バトンを渡された瞬間から一度もペースを緩めることなく、一生懸命走っていた。両クラスとも「頑張れ、Nちゃん！」と大声で応援している。一周走る間に相手チームと約1週の差がついていた。それでも誰一人怒ることなく応援していた。白チームのアンカーは4歳児のM児。以前、自分のチームが負けているとわかると怒って走り切らなかったことがあった。今回、バトンが渡された時はすでに相手チームはゴールしていたが、最後まで一生懸命走り切った。友だちから「今日のMちゃん、めっちゃ速かった」「かっこよかった」と声をかけてもらい、M児も嬉しそうであった。その場にいた両クラスの子どもたちがひとつになりN児を見守ったり、最後の友だちが走り切るまで応援したりする姿がとてもあたたかい空間であった。後半戦では、「次は勝とう！」と頑張る姿や応援に熱が入る姿があり、見事、白チームの勝利！自然と学年を超えて一体感がうまれていた。



担任から

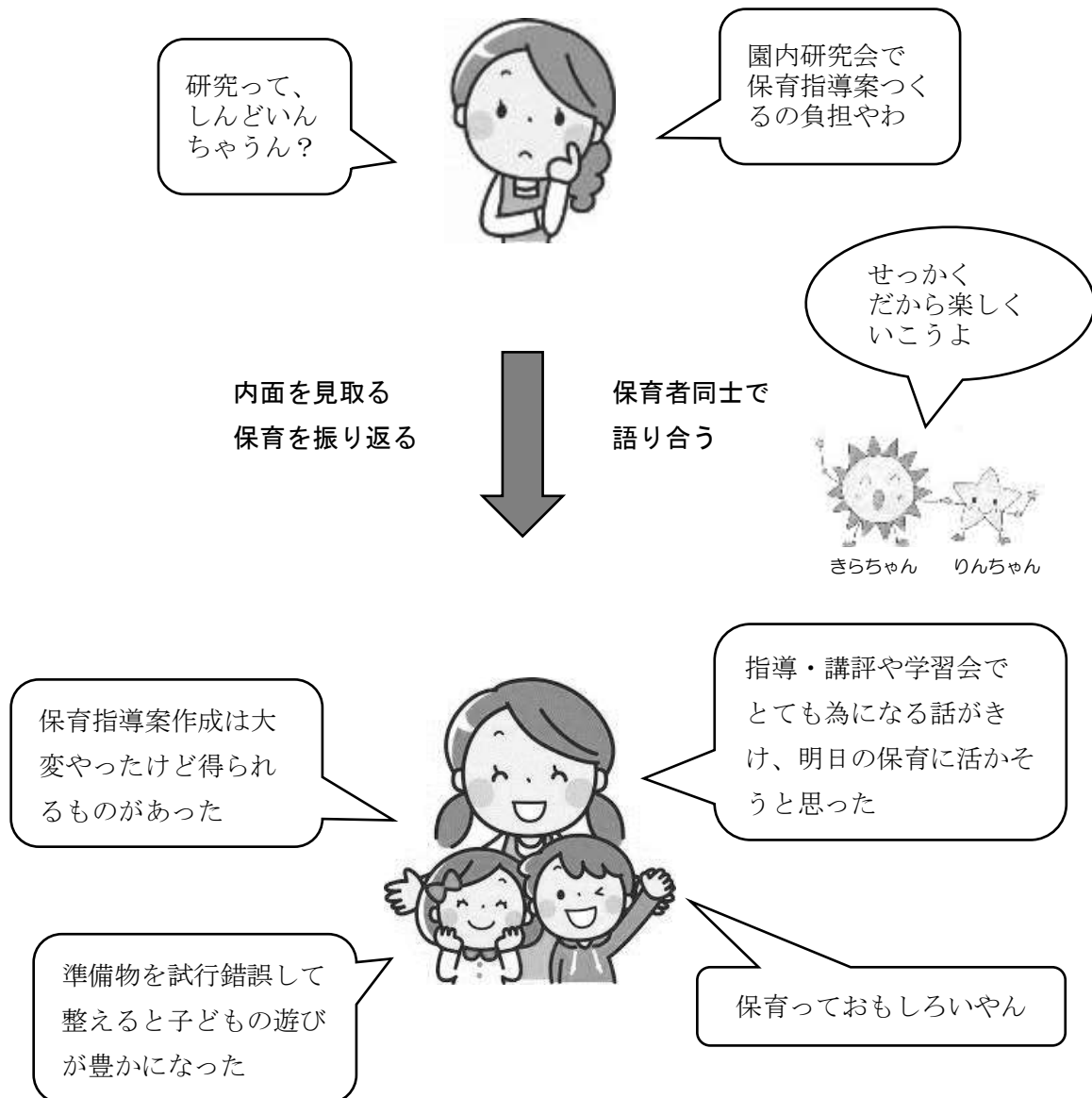
N児が友だちの姿を見て、自分も走りたい！と意欲的に参加できたことが嬉しく、また子どもたちも「Nちゃん走ってる！頑張れー！」と保育者と同じ気持ちで応援したのではないかと感じた。5歳児も勝敗にこだわる姿がある中で応援したり、「次は自分たちが頑張ろう」と頼もしい声がかかれたりと心の成長が見られ、嬉しく思う。これからも異年齢で日常のかかわりを大切に、互いに受けとめたり認め合ったりする経験を重ねていきたい。



6. 保育者の意識

年度当初、研究への保育者の意識はネガティブに捉えがちでマイナスの声もありました。そこで、重荷に感じたり堅苦しく考えたりするのではなく“自分たちが大事にしたい保育ってなんだろう”を語り合い“せっかくだから楽しいこうよ”とスタートしたのが研究の始まりでした。

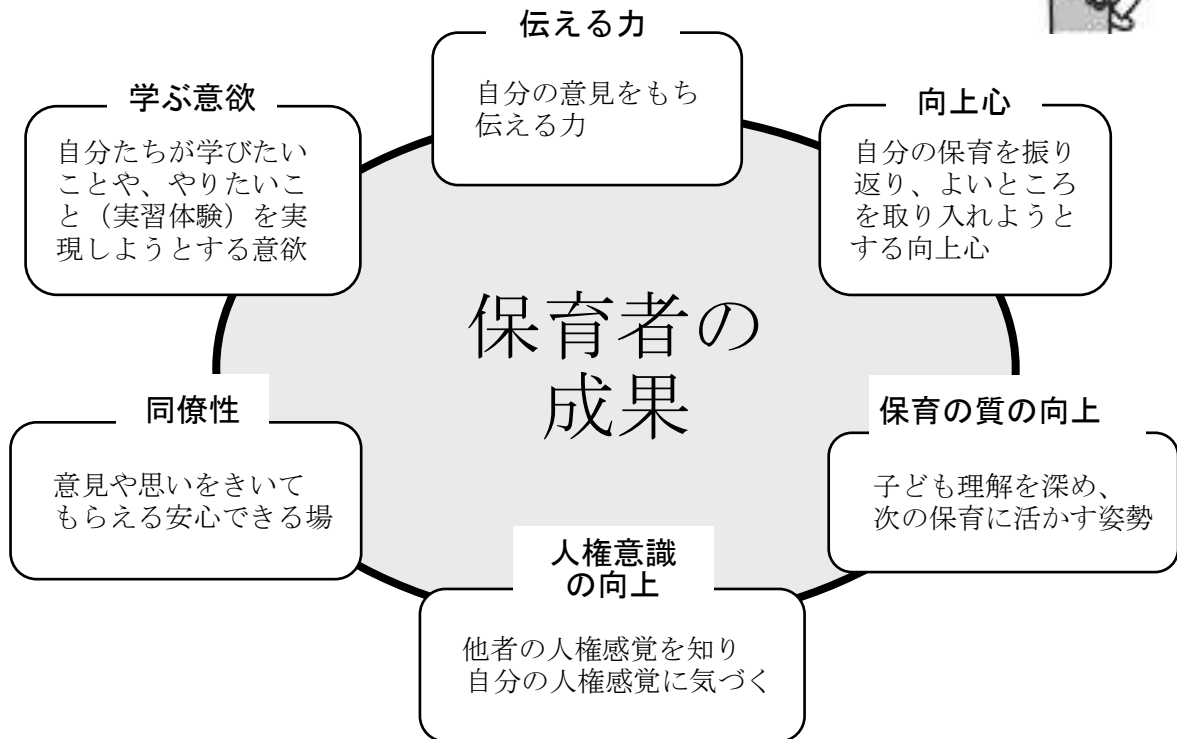
研究を進めていくうちに「大変なこともあるけど得られるものがあつた」という言葉がきかれたり、保育者同士語り合うことで自分の保育を振り返ったりする機会にもなったという意見も出てきました。また、様々な視点からの見取りをきくことができたことで保育の幅が広がったり、保育者間で子どもの姿や遊びの見取りを語り合い学び合ったりしたことが、明日の保育への向上心につながり、何より“保育っておもしろいやん”と感ずることができました。



7. 研究の成果と次年度に向けて

<成果>

1年次の研究を終え、スモールステップながらも下記のようなことが保育者の身につき、成果として捉えています。



まだまだ研究は道半ばではありますが、保育者一人ひとりの保育に対する意識は変わり始めています。

研究1年目は『かけがえのない一人ひとりを大切に』をテーマに保田先生から子どもにかかわる時の心もちを多方面からご教授いただきました。一人ひとりの保育者が研究に参加したことで、研究に対しての前向きな意識をもつことができたり、自分の保育に照らし合わせて考えたりできるようになり、保育者一人ひとりの保育力向上につながっていると感じています。

<次年度に向けて>

子どもたちの豊かな育ちには保育者のあたたかなかかわりや内面を見取る心もちが大切で、保育者の人権意識が根幹になると考えています。同僚と語り合い、何でも言い合えるあたたかな保育者間の雰囲気「あれ？」と疑問に思うことも語り合える関係性にもつながっていきます。互いを尊重し合う同僚とのあたたかな人間関係の土台づくりが必要です。その土台があるからこそ「やってみよう」という意欲や子どもの育ちをともに喜び分かち合う共感性がうまれてくることがわかりました。

研究2年目はその土台をさらに磨きながら、一人ひとりのありのままの姿をかけがえのない存在として受けとめ、安心感を与えることやあたたかく応答的なかかわりで愛着関係や信頼関係を築いていくことなど、心の根っこの育ちの部分を大切にしていきたい。また、あたたかい環境のもとで心つながる体験を豊かに、子どもも保育者も保護者も“あたたかさで心つながるひかりっこ”をめざし、次年度につなげていきたいと思っています。

研究協力

保田 維久子
(常磐会短期大学非常勤講師)

研究同人

令和4年度
安中ひかりこども園職員一同

令和4・5年度 幼児教育研究

かけがえのない一人ひとりを大切に ～あったかさで心つながるひかりっこ～

< 1年次 研究報告 >

令和5年3月 発行 (R4-196)

【発行】八尾市

八尾市教育委員会

〒581-0003 八尾市本町一丁目1-1

【TEL】072-991-3881 (代表)
